



## 研究者と評論家

日産化学株式会社の松原様からバトンを引き継ぎました、味の素株式会社の岩畑です。松原様とは日本分析化学会の産業界シンポジウムにて、同じ企業内分析研究者としてその活動内容を広く日本分析化学会で紹介したり、「実学」にこだわって、企業が求めている分野についてシンポジウムを開いたり、と一緒に楽しく盛んに活動をさせて頂いております。今回、その交流のご縁からこのような機会を頂きました。

さて、あらためてどんなエッセイを書こうかと自分の趣味などを振り返っていて、ふと自分が分析化学を始めた頃のことを思い出しました。私は大学3年生の冬に4年生で配属される研究室を選択したのですが、当時の私の大学では、希望調査で人数が定数を超えたら、その後はそれぞれじゃんけんで決めるという、ある意味平等な、そしてとても適当で、あまり成績がいいとは言えなかった私にとって素敵な方法が採用されていました。それにより、何れの天の采配か、私は見事第二希望の無機分析講座に配属され、それからいつの間にも約20年、これまで会社に入ってから変わらぬ一貫して分析化学に携わってまいりました。

もちろん、途中で何度か分析分野から変わろうと思えば変われる機会もありましたし、実際には一口に分析と言っても、会社に入った当初は長期研究テーマとしてお粥のアルミパック包装開発に参加し、続いて自分で大腸菌を培養してのアミノ酸代謝解析、その後は肝臓由来細胞の培養/代謝解析を経て、最近ではiPS細胞培養用の培地開発というように、中身はずいぶんバラエティに富んでいます。しかし、全体を見れば主軸となる活動はいつも分析化学のままであり、なんだかんだと言いつつも分析が好きで、また性に合っていたのだと思います。

そのようにあらためて思うと、わずか3年足らずに過ぎないのですが、最初に分析化学に触れた大学4年生の1年間と修士の2年間は、分析化学研究者としての基盤を作ったとても重要な時期でした。当然のことながら、実際には会社に入ってから行った多くの研究にて私の研究者としてのキャリアは作られているのですが、ちょっとしたときの思考パターンなどにその当時の恩師(名古屋大学原口名誉教授)の教えや、研究室の先輩、同期、後輩達とのディスカッション等を通じた経験が現れているように思います。実際のところ、決して特段勉強に熱心だったという訳でもなく、しょっちゅうサボって朝までお酒を飲んでいたり、突然ふらっとオートバイでツーリングに出かけてしまっていたりといった3年間だったとしても、です。

大学生らしく日々を十二分に満喫し、たまにちょっとだけ熱心に研究もしてみた、という程度の学生でしたので、残念ながら恩師から頂いた金言のレパトリーは少ないのですが、今でもよく覚えているものとして、「研究者に評論家は要らない」というものがあります。細か



夕暮れ時、横浜の港近くにて

くかみ砕いて指導して頂いた訳ではないので自分なりの解釈なのですが、「評価するだけでは新しいものは生まれない」とか、「知識だけあっても研究にはならない」とか、そういう意味だと思っています。「研究者とは新しいものを生み出す人達のことだ」という恩師の強い思いがあったのでしょうか。他人の言うことを素直に受け取れない天邪鬼気質の私ですが、この言葉は、大学を卒業後、多くの人と一緒に仕事をしているうちに本当にそうだなあと何度も実感したものです。

何やら少し偉そうなことを言ってみましたが、今もまだ自分は評論家ではなく研究者で居られているのか、実は時々振り返って自問自答しているところです。下手に余計な知識を付けてしまって「常識」に囚われ、若い人の新しい実験結果を頭から否定していないか、最初から「できない」と決めつけていないか、できない「理由」を作ってしまったのではないか、私にとって立ち止まるための甘美な誘惑はいくらでもあります。でも、せっかく「なんだかんだと言いつつも好きなこと」を曲がりなりにも職業とすることができ、日々の糧を頂けているのはとても幸せなこと。研究者としての価値を求められているうちは、もうちょっとだけ意地を通して頑張ってみよう。相変わらず、時々オートバイでふらっとツーリングに出かけてしまうけれど・・・。

今回の執筆は株式会社東芝の沖 充浩様にお問い合わせしました。沖様とは先月の日産化学株式会社の松原様とともに、日本分析化学会の産業界シンポジウムの運営委員として活動させて頂いております。産業界シンポジウムの活動が始まって今年で5年、年会でのシンポジウムに討論会でのポスターセッションなど、企業での分析業務を通してニーズや保有技術を紹介し、業種を越えて知り合える場として活動の認知度もあがってきています。今後も更なる発展を目指していきますので、どうかよろしくお願い致します。

〔味の素(株)イノベーション研究所 岩畑大悟〕